

## 令和8年度神奈川県立中央農業高等学校入学式 校長式辞

うらかな春の陽射しの中、木々が芽吹き始めました。ただ今、入学を許可されました182名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

また、保護者の皆様におかれましては、お子様のご入学、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。本日は、新入生の保護者の皆様のご出席のもと、PTA会長 小俣紫野 様、校友会副会長 小林 常良様、海老名市教育委員会教育長 伊藤文康 様、神奈川県農業技術センターをはじめ関係機関並びに学校運営協議会の委員の皆様方のご臨席を賜り、新入生の門出をともにお祝いくださいますことに、心より御礼申し上げます。

明治39年、愛甲郡立農業補習学校として創立した本校は、今年で120年目を迎えます。幾度となく校名変更や学科改編を重ねながらも、一貫して農業を中心とした教育を実践し、今日に至りました。これまで多くの卒業生が農業界、教育界、実業界など幅広い分野で活躍し、社会に貢献しています。皆さんも今日から、その歴史と伝統の新たな一員となりました。本校の正門には「命はぐくむ」と刻まれた石碑があります。この言葉は、本校の教育の根幹を表しています。

農業は、命と向き合う学びです。作物を育て、動物を世話し、命を食としていただく。その営みの中で、自然の恵みに感謝し、命を預かる責任を学びます。さらに、この学校で生まれるのは、皆さん一人ひとりの可能性という「命」でもあります。本校での三年間は、自分自身を大きく成長させる大切な時間です。そして、この「命はぐくむ」という理念を、日々の学校生活の中で具体的な行動として示しているのが、本校の三つの校訓です。「心身を強くする」「実践をとうとぶ」「至誠をつらぬく」

「心身を強くする」とは、困難に直面しても逃げずに挑戦し続ける強さを身につけることです。農業の学びは思い通りにいかないことも多くあります。しかし、その経験こそが皆さんをたくましく成長させます。

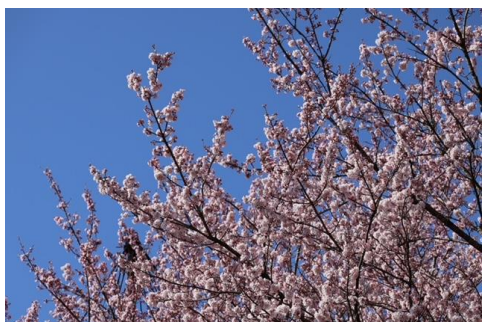
「実践をとうとぶ」とは、実際に体験し、行動する中で学ぶ姿勢を大切にすることです。本校の学びは教室だけで完結するものではありません。実習や体験の積み重ねの中で、本物の力が身につきます。

「至誠をつらぬく」とは、誠実な心を持ち続けることです。仲間や先生、地域の方々との関わりの中で、信頼される人へと成長してほしいと願っています。

ここで、高校生活のスタートラインに立つ皆さんに、二つお願いがあります。一つは、高校生活で何か一つ夢中になれるものを見つけて取り組んでほしいということです。勉強、部活動、学校行事、生徒会や委員会活動など、自分がこれだと思えるものに全力で挑戦してください。その経験は必ず皆さんの力となり、三年間を充実させてくれます。もう一つは、「人とのコミュニケーションを大切にすること」です。人は決して一人では生きていけません。互いを認め合い、相手の話をよく聞き、自分の考えを伝える力は、社会の中で生きていくための基礎です。特に大切にしてほしいのは「相手の話をよく聞く」ことです。相手を理解しようとする姿勢が、信頼関係の第一歩となります。

保護者の皆様、本校は農業の専門高校として様々な取組を進めながら、お子様の高校生活が充実したものとなるよう努めてまいります。そのためにも、学校と家庭が連携を密にすることが不可欠です。三年間のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新入生の皆さんが健康で、充実した高校生活を送られることを心より願い、式辞といたします。



令和8年4月7日  
神奈川県立中央農業高等学校 校長 岩崎 秀太